

論文内容の要旨

報告番号		氏名	久留野紀子
<p>Hand hygiene compliance in a universal gloving setting</p> <p>ユニバーサルグラビングにおける手指衛生遵守率</p>			

論文内容の要旨

すべての患者接触時に手袋を着用すること(ユニバーサルグラビング)は医療関連感染予防の新たな手法として提案されている。一方で手袋着脱前後には適切な手指衛生が必要になるが、ユニバーサルグラビングを行っている状況における手指衛生の遵守率についてのデータは少ない。そこで我々はユニバーサルグラビング下における手指衛生の遵守率とその改善策について検討した。

ユニバーサルグラビングを行っている奈良県立医科大学付属病院高度救急救命センター救急治療室の看護師を対象に WHO の手指衛生テクニカルリファレンスマニュアルを活用し、手指衛生と手袋使用の遵守率の観察を行った。そして観察前後に教育とフィードバックを行い評価した。観察期間は 2011 年 7 月～11 月の期間1をベースラインとし、期間 2(2012 年 4 月～7 月)、期間 3(2012 年 8 月～11 月)、期間 4(2012 年 12 月～2013 年 7 月)、期間 5(2013 年 8 月～11 月)であり、教育とフィードバックは直接観察期間中計 4 回行った。

結果:研究期間中に 6,050 の手指衛生の機会を得た。得られた機会数より手指衛生遵守率はベースラインの 16.1%(期間1)より 56.8%(期間5)へと増加した。しかし適応ごとの遵守率の向上の程度には違いがあった。ベースラインでは、清潔/無菌操作の前は 3.3%と低く、患者環境の後は 38.8%と高かった。この結果を踏まえ、段階的な教育とフィードバックを行ったが各々の適応の遵守率の向上は認められたものの、清潔/無菌操作の前と体液暴露のリスクの後は期間 3 と期間4とも低いままであった。この理由は適切な手袋交換が行われないことであった。また、体液暴露のリスクの後においては、手袋を脱いで手指衛生を行わないという理由もあった。そこで、期間 3 および 4 の後の教育とフィードバックでは手袋交換の重要性と手袋着脱時の手指衛生の重要性について解説したところ、遵守率は他の適応に比べて低かったが向上を認めた。ユニバーサルグラビングの遵守率は、94.0%(期間1)から 81.8%(期間 5)に減少した。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の発生率も低下の傾向(期間1、12.7 件/1000 患者日、期間 5、8.2 件/1000 患者日)を示した。

ユニバーサルグラビングを実施している現場において、適切に手袋を使用することと、適切に手指衛生を行うことは、複雑で難しい。しかし直接観察によるデータに基づく具体的なフィードバックと教育は遵守率向上に効果はあるかもしれない。